

奥州市立水沢中学校改築基本構想及び基本計画【概要版】

1. 基本構想・基本計画策定の経緯と目的

現在の校舎は、多くの棟が建築から50年以上経過し、老朽化が著しいことから、改築に係る基本計画を策定することとしました。

基本計画では、次代の学校に求められる機能・役割を整理し、良好な教育環境づくりを実現するための基本方針と考え方を示すことを目的とします。



2. 学校規模の現状と課題

本校は市内中学校の中でも規模が大きく、現在各学年5クラスずつ設置しています。

生徒数は、長期的に見て年々微減していくものと考えられます。

◆水沢中学校生徒数の変化

令和2年度	令和8年度 (予測)
466人	448人

3. 施設の現状

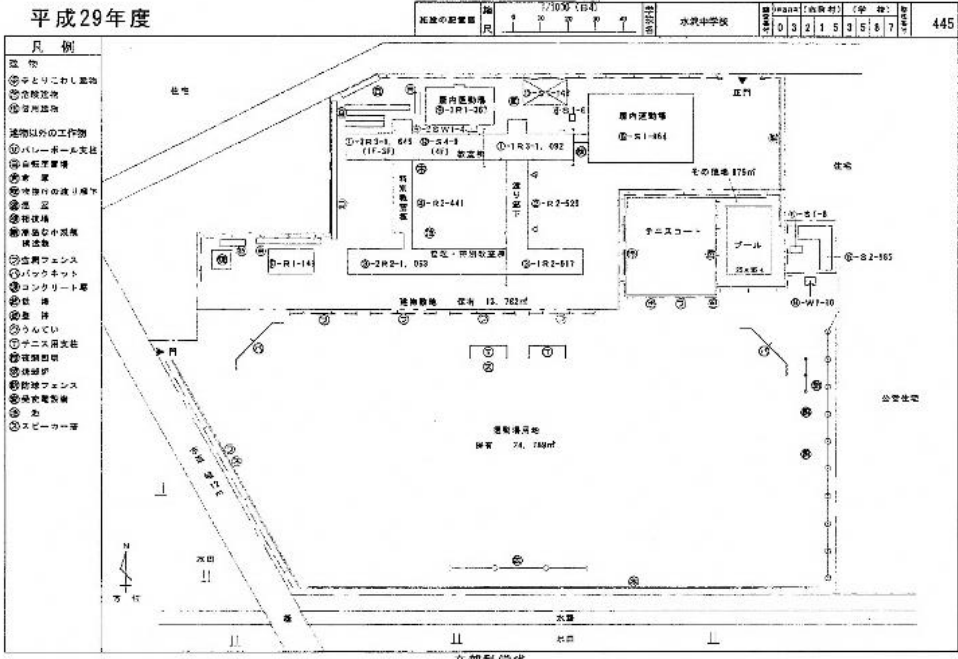
【敷地】奥州市水沢南丑沢10番地1

【敷地面積】約39,446㎡

【主な建物】校舎5,449㎡(昭和38年築)

本校の多くの建物は、築後50年以上が経過し、老朽化が著しく進んでいます。

また、近年の教育内容や社会的な変化等に対応するために、ICT環境の充実や冷暖房設備の整備など、良好な教育環境の確保が必要となっており、改築は急務です。



4. 検討委員会の設置

基本構想及び基本計画策定のため、学校関係者、地域住民代表及び有識者により構成する「奥州市立水沢中学校改築基本構想及び基本計画検討委員会」を設け、学校及び地域の意見聴取やアンケート調査、先行事例見学を行い、検討を行いました。



5. 施設整備の基本構想

本校の歴史や文化を継承するとともに、近年の教育内容・教育方法の変化や、学校施設を取り巻く課題に対応する施設環境を整備するために、次に挙げる4つの基本方針を軸とした基本構想を定めました。

(1) 水沢中学校らしさと伝統を守り受け継ぐ学校

- 水沢中学校の校風と伝統と、それらを育む土壌である水沢地域の歴史と文化（とりわけ水沢三偉人、日高火防祭、旧水沢緯度観測所とZ項の関わり等）について、学び受け継ぐための場の整備。
- 木の文化、森林保全問題等学習機会の確保に資する、木材を利用した施設整備への配慮等。

(2) 生徒を第一に考えた学校

- 生徒の自主性を最大限に活かした学習や活動ができるスペースの充実。
- 少人数グループや複数クラス等、様々な単位での学習活動に、柔軟に対応可能な施設機能の整備。
- 生徒にとって安全かつ効率的な動線確保と敷地・建物の効率的な配置への配慮。
- 「GIGAスクール構想」等に対応したICT教育環境の整備等。

(3) 教職員・保護者・地域住民とのつながりを大切にした学校

- 学校と保護者、あるいは地域との連携した活動の場を整備。
- 地域住民の利用にも配慮した施設の整備。
- 保護者や地域住民と学校との協働及び教職員の執務、教職員間コミュニケーションの充実・進展に資する管理諸室の整備。

(4) 安心・安全で地域の核となる学校

- 全ての人が安全かつ円滑に利用可能かつセキュリティ確保に配慮した施設の整備。
- 災害時における施設の役割を踏まえた機能の整備のほか、新型コロナウイルス等の感染症防止対策に対応した、換気やスペース確保の配慮等。

奥州市立水沢中学校改築基本構想及び基本計画【概要版】

6. 配置計画の検討（配置・工期・コスト）

施設機能・諸室の規模については、市内同規模校と同程度を想定し、配置計画は、建物エリアを各方角へ寄せる4案と、仮設校舎を設置する1案を合わせた計5案を検討しました。
この基本計画では案を特定せず、今後の基本設計にて検討を行い決定します。

配置計画（土地利用）比較・評価 一覧表

評価項目		A案 北側配置		B案 東側配置		C案 南側配置		D案 西側配置		E案 北側配置+仮設校舎	
屋外動線・配置計画	1. アプローチ動線	メイン・サブ共に長い	△	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○	メイン・サブ共に長い	△	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○
	2. 校舎ーグラウンド間動	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎
	3. 校舎ー体育館・武道場	校舎に近い配置で動線は短い	◎	校舎に近い配置で動線は短い	◎	校舎に近い配置で動線は短い	◎	校舎に近い配置で動線は短い	◎	校舎に近い配置で動線は短い	◎
	4. 南側採光の確保	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎	南北に伸びる配置の為、南側に面する教室配置が不利。	△	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎	南北に伸びる配置の為、南側に面する教室配置が不利。	△	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎
	5. 駐車スペースの確保	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎	駐車スペース確保は現状程度。	◎	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎	駐車スペース確保は現状より若干多く確保。	○
グラウンド計画	1. グラウンド面積	約24,500確保。	○	約24,500㎡確保。	○	約23,600㎡確保。	○	約25,300㎡確保。	◎	約22,700㎡確保。	△
	2. グラウンド配置	日当たり良好。	◎	日当たり良好。	◎	日当たり良好。	◎	日当たり良好。	◎	日当たり良好。	◎
	3. グラウンド形状	正形で活用しやすい。	◎	正形で活用しやすい。	◎	正形で活用しやすい。	◎	正形で活用しやすい。	◎	正形で活用しやすい。	◎
	4. トラック・直線	200mトラック、100mトラックを整備。	◎	200mトラック、100mトラックを整備。	◎	200mトラック、100mトラックを整備。	◎	200mトラック、100mトラックを整備。	◎	200mトラック、100mトラックを整備。	◎
周囲への影響	1. 敷地外への日影	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○	東側住宅地へ日影の影響がある。	○	東側住宅地へ日影の影響がある。	○	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○
	2. 視線の影響（校舎との）	既存校舎同様、住宅地への影響は少ない。	◎	南・東側住宅地へ校舎との距離が近づく。	△	南側住宅地へ校舎の距離が近づく。	△	北西側住宅地へ校舎の距離が近づく。	○	既存校舎同様、住宅地への影響は少ない。	◎
	3. グラウンドからの騒音	既存校舎と同程度。	○	校舎により東側住宅地への影響は軽減される。	◎	校舎により南側住宅地への影響は軽減される。	◎	校舎により北西側住宅地への影響は軽減される。	◎	既存校舎と同程度。	○
その他	1. 建設工期	供用開始：校舎R7、体育館R8 全体工事期間：R5～R9	○	供用開始：校舎R7、体育館R6前期 全体工事期間：R5～R9	○	供用開始：校舎R6後期、体育館R6 全体工事期間：R5～R8	◎	供用開始：校舎R7、体育館R8中期 全体工事期間：R5～R9	△	供用開始：校舎R7中期、体育館R6後期 全体工事期間：R5～R8	◎
	2. 建設コスト	比較としては中間値程度。	◎	比較としては中間値程度。	◎	比較としては中間値程度。	◎	比較としては中間値程度。	◎	仮設校舎設置による大幅なコスト増。	△
	3. 建設難易度	校舎の解体・新設がラップする為、難易度は比較的高い。	△	新設と解体がラップしない為、難易度は低い。	◎	新設と解体がラップしない為、難易度は低い。	◎	当初市の想定計画と同程度。	○	新設と解体がラップせず、仮設校舎により安全性も確保され難易度は低い。	◎

7. 検討の結果・今後の課題

委員会では、次のような意見や課題がありました。今後、基本設計を進める中で、内容を整理検討し、反映させていきます。

- (1) 施設の機能規模について
 - 教室数の確保、多目的室や体育館の拡充等に配慮を求める。
- (2) 配置・平面計画について
 - 建物エリアを東、西又は南側とする案はデメリットがある。
 - 北西側への建物配置についても検討を要する。
 - 仮設校舎案は設置コスト多大で実施が困難である。
 - 学校用地の十分な確保について検討を要する。
 - 校舎の階数、体育館と武道場の一体化等、敷地全体の有効活用について検討を要する。
 - 維持管理を考慮した建物配置等配慮を求める。
- (3) 水沢中学校の特色と水沢の伝統文化を生かした校舎計画等について
- (4) 災害時を想定した利用について
 - 教育機能充実に重点を置きつつ、災害時対応機能の整備に配慮を求める。

8. 今後のスケジュール

基本計画時点での全体スケジュールは、次のように想定されます。
今後、基本設計及び実施設計において、さらに詳細なスケジュールを検討します。

年度	整備・実施項目
令和3～4年度	各種調査、基本設計及び実施設計
令和5～6年度	校舎
令和7～8年度	体育館、武道場、プール、グラウンド、外構

※5案の平均的なスケジュールを示す。